ド　イ　ツ　語

第１　高等学校教科担当教員の意見・評価

１　前　　文

共通テストの追・再試験が実施された。

学習指導要領には「英語に準ずる」と明記されているだけであり，英語以外の個々の外国語に関して，準拠すべき基準が明確になっていないため，共通テスト「ドイツ語」の出題方針や出題範囲については，高校で教える立場として受験者を「高校で３年程度ドイツ語を継続して学んできた」と仮定し，評価したい。

また，ドイツ語では高校向けの文部科学省による検定教科書は存在しておらず，そもそも高校の授業用に編纂された教科書が存在しない。高校で授業を担当する者は，大学の授業で用いられる教科書の中から適していると思うものを選定して利用しているのが現状である。このような現状を踏まえると，教科書の内容を評価基準としてどのように設定するのかは非常に難しいが，以前から出版されている文法項目を中心に学ぶもの，あるいはCEFRに準拠するようなコミュニケーションベースで学ぶ教科書のどちらを中心に学んだとしても解答できるかを検討していきたい。また設問で扱われる題材は，高校生にとって身近な日常生活に関する話題から，大学で学びたい受験者にふさわしい，やや学術的なものまで様々な題材が扱われることを望む。

高校現場においては，CEFR準拠やコミュニケーション重視の教科書を用いた授業が多くなってきているように感じる。その場合，各課や表現を学ぶ際にタスクを達成することが求められ，文法だけを扱う授業よりも多くの時間を要する。ドイツ語の授業時間が必要に応じて増やせるわけではないので，以前の文法訳読中心の授業より，授業で扱う内容を精査しなければならない。

大学入学試験のひとつである共通テストを受験する者には，文法の規則を説明するのに必要な用語は，ある程度学んでから大学へ入学するべきだと考える。

また，授業で扱う教材や，問題集で目にするかどうか，どの程度目にするのかを，難易度の参考にする。母集団が少なく，ドイツ語学習環境は受験者によって多種多様であり，統計的に妥当な散らばりなのかは判断できない。追・再試験の受験者は，本試験に一度目を通していると仮定すると，出題傾向を把握していると考える。入試の公平性を保つためには，追・再試験は全般を通じて本試験よりやや難しくなっていることが妥当だと考える。

なお，評価に当たっては，報告書（本試験）14ページに記載の８つの観点により，総合的に検討を行った。

２　内　容・範　囲

本試験と同様に全体の構成は大問７つ，設問数は51問，文法，対話，広告文，物語，特定のテーマ下での長文など，受験者には幅広い学習が求められる出題構成であった。

第１問　発音やアクセント，動詞や複数形のつくり方など基本的な知識を問う出題。本試験よりやや取り組みやすい印象を受けた。

問１　単語ｔの発音を区別する。-tionの読み方。

問２　母音の長短を問う出題。身近な語彙が選択肢に並んでいる。

問３　共通する語頭のつづりを持つ２つの名詞と形容詞のアクセントを区別する出題。本試験と同様，アクセントの位置は語の後ろのつづりから判断可能。

問４　不規則動詞の人称変化を問う基本的な出題。特に②のhaltenは受験者にとって本試験より馴染みがある動詞か。

問５　不規則な変化をする動詞のうち，不定形の幹母音「e」が過去分詞になった時に「a」に変化する動詞を選ぶ出題。基本的な動詞であるが，④kennenの過去分詞を使った例文や対話文を近年ではあまり見かけないのではないか。本試験同様，問題文に「下線部の母音」と表記されているので，例示することに疑問が残る。

問６　複数形で母音が変音する語を問う出題。正答①Handは複数形でよく目にする単語。②～④はすべて-n型で，幹母音の変化はない。

問７　特定のテーマに属さない語を探す。選択肢から③Wolkeを選ぶのは難しくはない。

第２問　文法的知識の正確性が問われている。所有冠詞，再帰代名詞，副文など広範囲からの基本的な出題。文法事項を着実に，正確に学んだ受験者であれば正答を選ぶことができる。

問１　Was für ein～の冠詞の変化を当てはめる。男性名詞，不定冠詞の４格。「どんな（種類）のケーキ？」

問２　再帰代名詞の「お互いに」を意味する，相互代名詞的用法を選択する。

問３　関係代名詞を答える。先行詞である，Politikerinが女性名詞であることがわかるか。また，von^{3}/über^{4}＋erzählen「～について語る，話す」がわかればそこまで難しくはない。

問４　es+kommt+auf^{4}＋an「～次第である」だとわかるか。よく目にする熟語表現。

問５　受動態の過去形を選ぶ基本的な出題。übersetzen「翻訳する」は知っていてほしい。

問６　aufstehen用いた現在完了形の助動詞を問う。aufstehenは完了形を学ぶ際に，注意するべき分離動詞。

問７　gutの最上級（am）bestenを選択する。

問８　ab und zu「時々」。頻度を表す表現として知っていてほしい。

第３問　副文など，比較的複雑な文構造を持つ文を，与えられた語を空所に当てはめて完成させる出題。余計な選択肢が１つあるが，受験者は傾向を把握しやすい。唯一受験者が文を構成するので，表現力を問うことができる。昨年度より１問減ったのが残念である。

問１　疑問副詞woを従属接続詞的に扱う。主文の前置詞am（Meer）と副文の動詞の位置を選ぶ。

問２　従属接続詞nachdemを使った，主文と副文の語順を問う出題。迷う要素は少ない。

問３　soと従属接続詞dassに導かれる副文内の並び替え。英語のso that構文ほど意識的に教えてはいないが，受験者には知っていてほしい表現。

問４　zu不定詞を含んだ文と副詞daherを含んだ語順，使役動詞＋話法の助動詞を含んだやや複雑な文ではあるが，空所の配置に配慮がなされている。

第４問　一連の比較的長い対話等を読み，設問に答える。テーマは，「ドイツでの留学生活と帰国後」。本試験より，読んだ内容についての設問があり読みやすい印象があり，設問を通して起こった出来事を把握することで，より理解が進む。

問１　場面状況を理解し，適切な表現を選べるか。誰のセリフかがわかれば選択できる。

問２　Shoの３番目のセリフの中で起きた事柄を整理すれば，選択することができる。falschen Zug, anderthalb Stunde，Treffpunktがわかるか。

問３　$\boxed{26}$の次にJaと肯定しているのでそれに対応する表現を選ぶ。またShoはHandyやwurde abgeholtと言っていることから「（最終的に）ことがうまくいった」ことがわかる表現を選ぶ。

問４　Dasの直前のShoのセリフがそれを指していることと，下線部以降のFrau Schulzのセリフから判断可能。

問５　下線部㉘のセリフから適切な状況を表わす絵を選択する。下線部以降のセリフから自転

車がドイツでは右側を通行しなければならないことがわるか。

問６　下線部㉙のセリフの言い換えを選択する。störenを言い換えた際に，negativeかpositiveな表現であるかがわかれば正答できる。

問７　前後関係がなくても，Tobiasの 30 を含むセリフがわかれば，「（レストランでベジタリアン料理が）提供される」という言葉を選択することができる。

問８　ここまで対話を読み進めることができていれば，消去法で判断可能。③の選択を確実なものにするには，TobiasがJa, hier vermisse ich sie(Radwege) manchmal. と言っていることと対応することがわかるか。

第５問　大学生とその母親とのやりとりと関わる情報から読み解く出題。テーマは環境問題であり，SDGsについて他教科で扱うことも多く，受験者にとって馴染が深いテーマである。また，対話はずっとカフェで行われているので，場面や時の変更，登場人物も変化がないので，状況を本試験より把握しやすい。

問１　適切な絵を選ぶ出題。Löffelを基本的な語彙として理解しているならば，ohneとmitの意味が分かれば正答は容易に選べる。

問２　記事の意味が細かく取れなくともいくつかの語彙から①②④の絵を選択することは可能。迷う要素は少ない。

問３　対話の流れや記事から環境問題が深刻であることがわかり，選択肢の意味が理解できるか。

問４　Ninaと母親の環境問題に対する意識を整理できればさほど難しくはない。

問５　下線部㊱の前の母親のセリフから判断可能か。その前の母親と娘が化粧品のパッケージの話をしていることから，選択肢を注意深く読まないといけない。

問６　正答④を含む選択肢のドイツ語は難易度が抑えられている。von＋überzeugenはやや難の表現。

第６問　物語からの出題。ドイツ語の場合，物語では過去形が多用され，物語特有の表現を知っていなければならないが，本試験同様，昨年度ほどの読みにくさは感じない。昨年度より１問増。

問１　物語の流れに合わせて，選択肢を並び替える。選択肢のドイツ語が物語のどの場面を指すのかを理解するのに時間がかかる。特にどの選択肢から始まるのか，その起点を探すのに苦労をするのではないか。並び替える文の真ん中に前もって１文固定されており配慮がなされている。ただ，登場人物と起きた出来事の順序を整理できないと，両方正答するのは難しかったのではないか。昨年度の共通テスト⑴の並び替えと傾向が似ている。

問２　第１段落の描写から適切な絵を選択する。女性が身に着けているHut，男性のSonnenbrilleがわかるか。正答は①だが，顔がもう少しはっきりと判別できたほうがよいのではないか。

問３　本文中の表現の言い換えを選択する。本文中のKindとFigurの言い換え。Figur，Steinがわかるかがポイント。aus「～からなる」

問４　本文中のdamit der Stein ～ älter aussiehtという表現の言い換えを選択肢から探す。

問５　ここまでの設問を苦労なく解けた受験者にはそう難しくはない。

第７問　Freizeitsportに関する記事である。本試験ほど学術的ではないが，１つのテーマについて掘り下げた内容の文章となっている。受験者にも取り組みやすいように，使用語彙に配慮がなされている。

問１　２段落目の最後の文と同じ内容となる表現を入れる。内容が理解できるのであれば正答は選択できる。

問２　本文３段落目のschlägt vorと設問文のempfiehltが同じ意味で用いられていることがわかれば，その後の２文を読めば③を選ぶことは困難ではない。

問３　４段落目の内容が理解できれば，③を選択することになる。③は，sieがZieleを指し，die eigenen (Ziele)が省略されている。

問４　５段落目の最後の２文が言い換えられるか。選択肢のKonfliktenやLebensbereichen等が本文中の表現と対応するとわかるかは疑問が残る。働く立場に想像力を働かせることも，受験者にとっては難しかったのでないか。

問５　本文中最後の段落の言い換え。本文中のmit Spaß Sport machenと①gerne Sport machenが同じ表現だとわかるか。

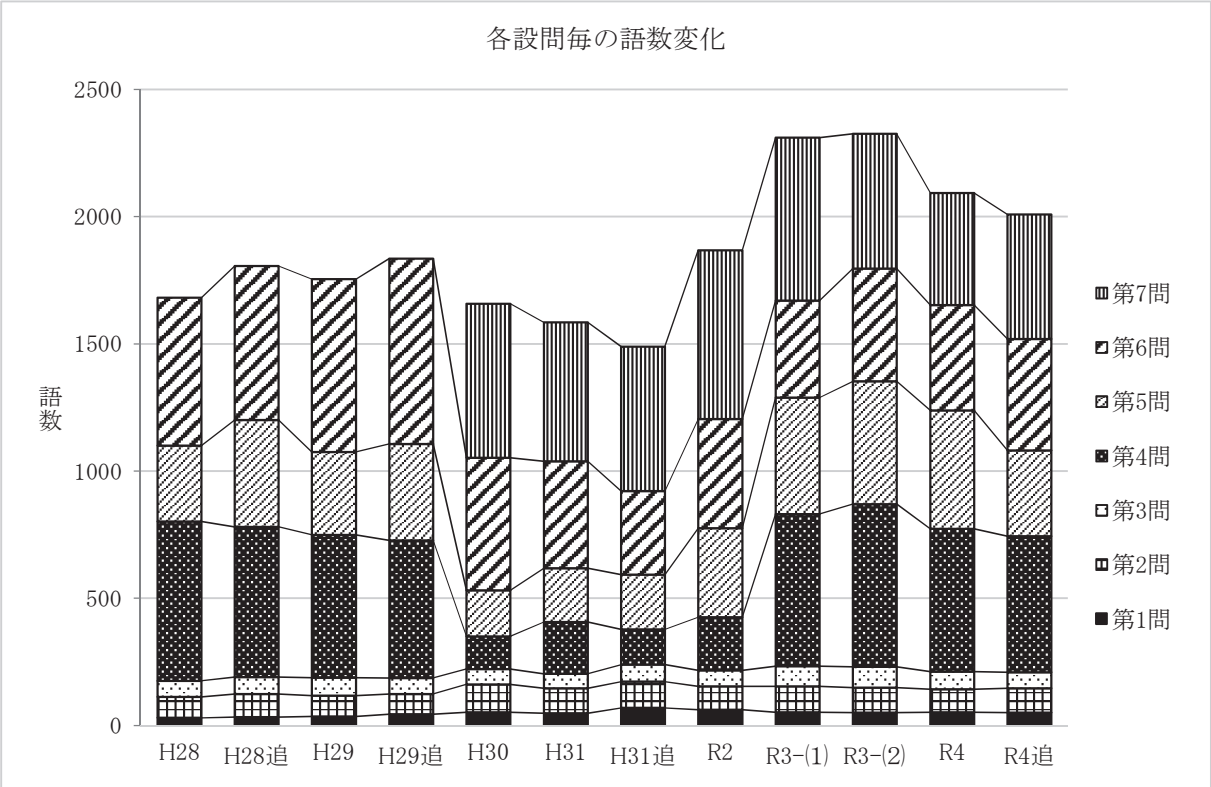
問６　問３が正答できているのならば，正答③を選ぶのは難しくない。正答③以外の選択肢の内容は本文では触れられておらず，丁寧に読み込めていれば正答に至ると考えられる。

問７　適切なタイトルを選択する。ここまで読めているのであれば，正答②を選ぶのは難しくはない。

３　分　量・程　度

昨年度の共通テスト⑴及び共通テスト⑵より１割程度使用語彙が減った。さらに，本試験と比較すると追・再試験の方が，使用語彙が抑えられている。昨年度の共通テストを基準として準備していた受験者には，分量が抑えられ取り組みやすい印象を受けたのではないか。全体的に口語表現が使われたとしても，状況や場面から類推可能であり，語彙や表現に配慮を感じる。

昨年度この場で，「第３問では使われない選択肢が増え，迷う要素が増えたことも加わり，受験者にとっては大きな負担だったようだ」と述べたが，今回は使われない選択肢があっても，求められる構文や語彙がきちんと身についていれば，迷う要素は少ない。



4　表現・形式

昨年度，この場で指摘した，類推不可能な口語表現はなかった。また，過去形を用いた第６問も使用語彙に配慮を感じたが，CEFR準拠のコミュニケーションを重視した教材を用いて授業を進めるとなると，過去形を多く含む物語を集中的に学ぶ時間はほとんどないのが高校の現場の実情である。

第４問，第５問ともに追・再試験の方が本試験よりも読みやすい印象を受けた。第４問では，対話が行われている時と場所の移り変わりが多少あるが，本試験より登場人物の把握がしやすく，設問の位置も話の流れを阻害していない。第５問でも，親子がカフェで対話している形式であり，本試験のように場面が切り替わらない。その間にインターネットの記事も入るが，本試験のような複雑な要素は入ってこない。

共通テスト「ドイツ語」にはリスニングの設定がなく，受験者にアクセントや母音の長短への意識を持たせるためにも，アクセントや母音についての出題を維持してほしい。

設問の中に，絵を選ぶ出題が本試験より多く出題され，本文をある程度イメージできれば解答できてしまう。その出題数が本試験よりも多いことで難易度に差が生まれてしまうのではないか。

「思考力・判断力・表現力等」を問うことを共通テストでは意識しているのかもしれないが，記述式の出題がない中で，それらの能力を問うには限界があると感じている。

5　ま　と　め

追・再試験について，幾つかの観点から意見を述べはしたが，「英語」とは違い「ドイツ語」の学習環境は多種多様であり一般化することができない中で，高校の現状を鑑みて「ドイツ語」の問題作成に多くの時間と労力を割いていただいている問題作成委員の方々に心から感謝申し上げる。